

感染症発生動向調査委員会報告 12月

《今月のピックアップ》

- 感染性胃腸炎の流行警報が発令(警報発令基準値: 定点あたり 20.00 以上)されました。
- インフルエンザの流行の目安である定点あたり 1.00 を上回りました。
- RS ウイルス感染症の報告が多い状況が続いています。
- 水痘の報告が増加しています。

全数把握疾患 12月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	5件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	風しん	1件

＜細菌性赤痢＞ *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件ありました。国内での感染が推定されています。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件の報告があり、3件は国内での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。

＜ウイルス性肝炎＞ 1件のB型肝炎の報告があり、国内での感染が推定されていますが感染経路等不明でした。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞古典型 CJD の報告が1件ありました。

＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞5件(AIDS 1件、無症状病原体保有者3件、その他1件)の報告がありました。AIDSの症例では、ニューモシスティス肺炎が認められ、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の3件とその他の1件は、いずれも同性間性的接触による感染が推定されています。

＜侵襲性肺炎球菌感染症＞4件の報告がありました。1件は40歳代男性(ワクチン接種歴無し)で、蜂窩織炎による右下肢の激痛が見られました。血清型は15型でした。もう1件は80歳代男性(ワクチン接種歴不明)で、症状は発熱で、肺炎が認められました。血清型は19型でした。もう1件は女兒(ワクチン接種歴3回有り)で、症状は発熱と咳で、血清型は19型でした。残るもう1件は女兒(ワクチン接種歴4回有り)で、症状は発熱と全身倦怠感で、血清型は24型でした。

＜梅毒＞5件(早期顕症Ⅱ期2件、無症候期3件)の報告がありました。いずれも国内での性的接触による感染が推定されています。

＜風しん＞1件の30歳代男性の報告(ワクチン接種歴不明)がありました。先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予防接種も重要です。予防接種の助成が実施されています。

◆横浜市風しん予防接種助成の詳細(保健所)

定点把握疾患 平成25年11月25日から平成25年12月22日まで
(平成25年第48週から平成25年第51週まで。ただし、性感染症については平成25年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第48週	11月25日～12月 1日
第49週	12月 2日～12月 8日
第50週	12月 9日～12月15日
第51週	12月16日～12月22日

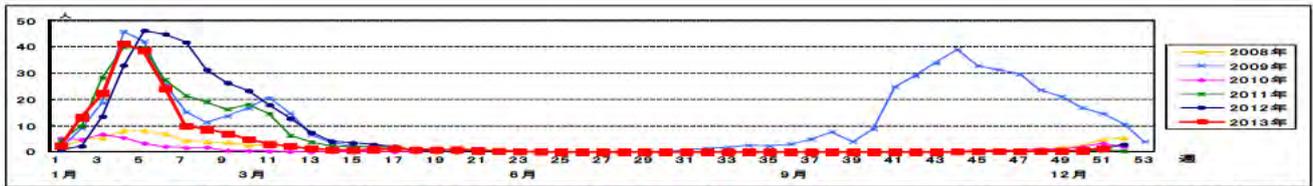
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

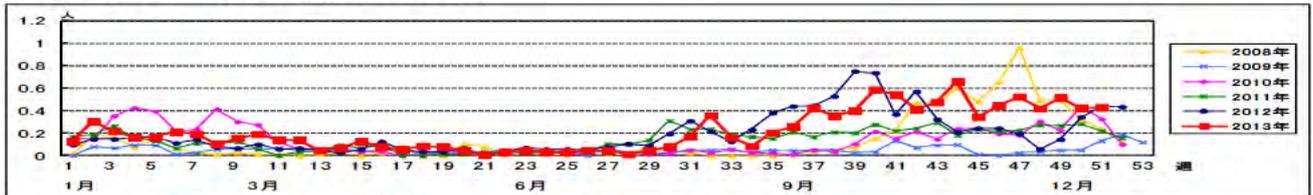
＜インフルエンザ＞第51週は市全体で定点あたり1.41と、流行開始の目安となる1.00を超えました。区別でも11区で1.00を上回りました。また、学級閉鎖(小学校学級)が第50週2件、第51週1件報告されています。迅速キットの結果では、今シーズン36週からの累計で、A型54.3%(188件)、B型45.7%(158件)となっています。今シーズン衛生研究所で検出された結果はAH3亜型(A香港型)8件、AH1pdm09が6件、B型(ビクトリア系統)5件です。[全国のウイルス検出状況](#)でも、AH3亜型(A香港型)、AH1pdm09、B型(ビクトリア系統)、B型(系統不明)が混在しています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)

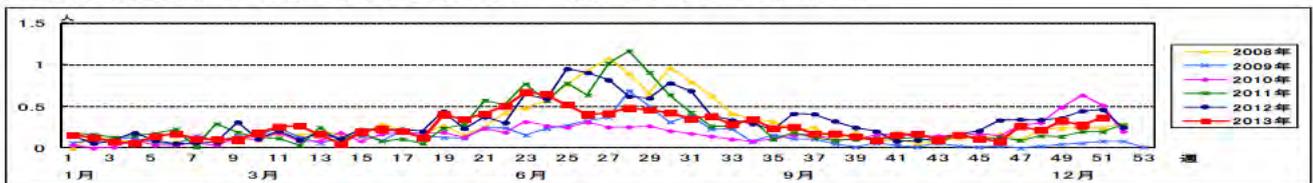
◆インフルエンザ予防チラシ(横浜市)



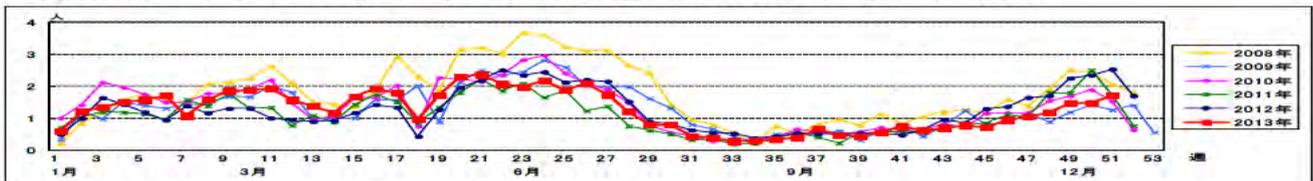
＜RSウイルス感染症＞市全体で第51週0.43と報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する疾患でもあり、今後の注意が必要です。



＜咽頭結膜熱＞市全体で第51週0.37とやや報告が多くなっています。

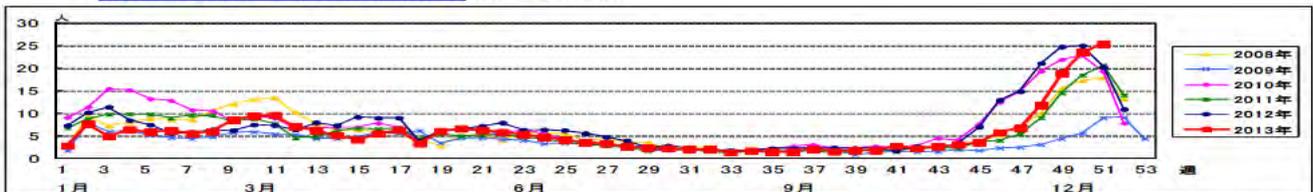


＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞市全体で第51週1.72と漸増傾向が続いています。

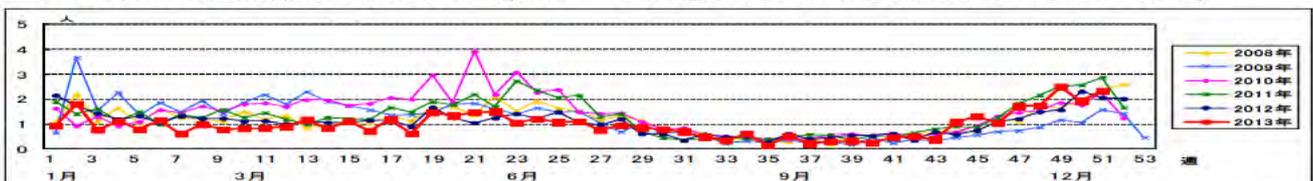


＜感染性胃腸炎＞市全体で第51週25.51と、2012年第50週25.11を上回り、過去5年間と比較して最も報告が多くなっています。区別でも16区で警報レベル(警報発令基準値:定点あたり20.00以上)となっています。例年冬期を中心に流行する疾患であり、今後の注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市感染性胃腸炎臨時情報(衛生研究所)



＜水痘＞市全体で第51週2.34と報告が増加しており、瀬谷区11.50と警報レベル(警報発令基準値:7.00以上)、旭区4.83、都筑区4.33では注意報レベル(注意報発令基準値4.00以上)となっています。



＜性感染症＞11月は、性器クラミジア感染症は男性が24件、女性が16件でした。性器ヘルペス感染症は男性が9件、女性が5件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が14件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第48週1.25、第49週0.75、第50週0.33、第51週0.00となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は第50週に1件報告がありました。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件、薬剤耐性緑膿菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件(鼻咽頭ぬぐい液43件、ふん便5件)、内科定点10件(鼻咽頭ぬぐい液8件、ふん便1件、結膜ぬぐい液1件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点2件(鼻咽頭ぬぐい液1件、髄液1件、直腸ぬぐい液1件)で、定点外医療機関からは3件(鼻咽頭ぬぐい液3件、気管支吸引液1件、髄液1件、尿1件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎20人、下気道炎12人、胃腸炎5人、インフルエンザ(疑い含む)およびRSウイルス感染症各3人、アデノウイルス感染症、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発疹症、りんご病各1人、内科定点は上気道炎3人、インフルエンザ(疑い含む)4人、胃腸炎2人、アデノウイルス感染症(疑い)1人、眼科定点は急性出血性結膜炎1人、基幹定点は手足口病(疑い)1人、ウイルス性髄膜炎(疑い)1人、定点外医療機関は無菌性髄膜炎1人、先天性風疹感染症1人、急性肺炎1人でした。

1月10日現在、小児科定点の下気道炎患者2人からアデノウイルス5型(RSウイルス遺伝子と重複1人、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス1型、ヒューマンボカウイルスの各遺伝子と重複1人)、内科定点の上気道炎患者1人からアデノウイルス4型(ライノウイルス遺伝子と重複)、小児科定点の上気道炎患者2人、咽頭結膜熱患者1人、内科定点の上気道炎患者1人、アデノウイルス感染症患者1人、眼科定点の急性出血性結膜炎患者1人からアデノウイルス(型未同定、RSウイルス遺伝子と重複1人)、小児科定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスB型ビクトリア系統(RSウイルス遺伝子と重複1人)、1人からインフルエンザウイルスAH3型(アデノウイルス、パラインフルエンザウイルス1型の各遺伝子と重複)、内科定点のインフルエンザ患者1人と定点外医療機関の急性肺炎患者1人からインフルエンザAH1pdm09ウイルス、小児科定点の上気道炎患者1人からパラインフルエンザウイルス2型(RSウイルス遺伝子と重複)、上気道炎患者1人からコクサッキーウイルスB1型(ライノウイルス遺伝子と重複)が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者4人からアデノウイルス、胃腸炎患者3人と内科定点の胃腸炎患者1人からノロウイルスG2型、小児科定点の上気道炎患者1人、RSウイルス感染症患者1人、内科定点の胃腸炎患者1人からRSウイルス、小児科定点の上気道炎患者2人と下気道炎患者1人からヒューマンコロナウイルス、上気道炎患者1人と下気道炎患者1人からライノウイルス、下気道炎患者1人とRSウイルス感染症患者1人からパラインフルエンザウイルス(3型1人、4型1人)、手足口病患者からコクサッキーウイルスA6型、下気道炎患者2人、RSウイルス感染症1人、アデノウイルス感染症1人からアデノウイルスとRSウイルス、上気道炎患者1人からアデノウイルス、パラインフルエンザウイルス2型、RSウイルス、ヒューマンコロナウイルス、上気道炎患者1人からアデノウイルスとパラインフルエンザウイルス3型、上気道炎患者1人からアデノウイルスとヒューマンコロナウイルス、下気道炎患者1人からアデノウイルス、パラインフルエンザウイルス2型、3型、RSウイルス、下気道炎患者1人からヒューマンボカウイルスとRSウイルス、下気道炎患者1人からヒューマンボカウイルス、RSウイルス、ライノウイルスの遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは3件あり、赤痢菌(*S.sonnei* I相)、腸管出血性大腸菌(O157:H-VT1)、*Campylobacter jejuni* がそれぞれ1件でした。

その他の感染症は小児科から5件、その他が9件でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(12月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	12月			2013年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	9	3	5	102	90
菌種名						
赤痢菌			1		3	5
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			1		1	62
腸管毒素原性大腸菌					4	
チフス菌					4	3
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
カンピロバクター			1			6
不検出	0	9	0	4	68	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	12月			2013年1月～12月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	0	9	64	29	163
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1		2	1	
	T2			5		
	T4	1		11		
	T6			8		
	T12			4		
	T25	1		4		
	T28			3		
	T B3264	1		4		
	型別不能			1		
B群溶血性レンサ球菌				1		2
G群溶血性レンサ球菌						3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌			1		2	22
<i>Legionella pneumophila</i>						3
インフルエンザ菌				2		4
肺炎球菌			7	5	4	29
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌			1	2	5	2
結核菌						10
緑膿菌						63
百日咳					3	1
その他					4	6
不検出	1	0	0	12	0	16

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】